



庄原自治振興区だより



第 180 号 令和 3 年 10 月 20 日 発行

〒727-0013

庄原市西本町二丁目 18-8-401

TEL/FAX

(0824) 72 - 3777



庄原自治振興区の事務所移転が終了しました！！

…… 9 月 13 日から「仮事務所」での活動を始めています。……

庄原自治振興センターは、令和 3 年 10 月から令和 5 年 3 月末までの約 1 年半の間、市民会館・自治振興センター大規模改修工事が始まる事により、8 月から備品整理などの移転準備作業を行い、9 月 6 日 9 時 30 分から 12 時まで、自治会長(19 名)の協力をいただいて、仮事務所・仮倉庫(旧田川小)・不用品のリサイクルプラザ移送作業などを行い、9 月 8 日には運送業者により机・書庫などの大型備品を移送し、移転作業がすべて終了しました。

その後、仮事務所の事務所・倉庫・会議室の整備を行い、各種の活動ができる状態となりました。この間、ご支援ご協力いただいた皆様へ感謝とお礼を申し上げます。

なお、現仮事務所は当面、本区の各種会議・自主事業(生涯学習事業等)を中心に利用し、その他の関連団体の会議などでも活用頂き、一般利用については可能な限りご利用いただくことといたします。

地域の皆様、旧事務所同様にお気軽に来所・お電話など頂きますようお願いいたします。



旧事務所前



旧事務室あと



工事が始まった自治振興センター



移転後の事務室



移転後の会議室
アクリルパーティション設置

9 月役員会報告

(9 月 28 日) 協議事項等は以下の通りです。

(1) 主催事業の取り組みについて

- ◆ 第 15 回区民ウォーキング(10/16 予定)・・・新型コロナウイルス感染拡大懸念により急遽中止を決定。
- ◆ 第 14 回活動報告・作品展・・・11/7(日) 新型コロナウイルス対策を施して予定通り実施する。
- ◆ のろし祭り(美湯ハイヴ コアハウス)・・・11/23(火・祝) イベントは行わずのろしりーのみ実施。

(2) 令和 3 年度先進地視察研修会(日帰り)について

- ◆ 日程／研修先・・・11/12(金) 広島市安佐北区八木地区・同区「広島市総合防災センター」

(3) 自治会活動報告・・・美湯ハイヴー松浦自治会長、自治会活動報告は今回で一旦終了。



～ いにしへの郷「庄原」からのつたえごと ～ No.18



シリーズふるさと歴史文化散策 近世5

《 郷土の歴史を10倍楽しむ豆知識：外伝上野池諏訪神社 》

三次盆地から庄原市街地にのびる丘陵はわずかな起伏により丘が連なっているように見えます。“隆起準平原”と呼ばれる地形で、海底にできた堆積地層の平坦面が隆起し陸化したもので、湧水湿原を伴うという特徴があります。

先祖はこの湧き水をせき止め築堤し、嵩上げ工事をくり返して湧水溜池に造成し稲作りをしてきました。上野池も他の湧水溜池と成り立ちを同じくするものですが、成り立ち起源の伝説はありません。丑寅神社側から弁天橋を渡ると弁天島があり、また少し上ると巖島(いっくしま)神社があり、上野池にも昔は弁才天を祀っていたのでしょうか。

民俗の神様巖島大明神は巖島神社の尊称であり、普通は“巖島”といわず“安芸の宮島”と呼ばれ『広島県史(寺編)』によると主祭神は、市杵島比売命(いちきしまひめのみこと)となっています。

“いちきしま”が巖島になったという説があり、巖島神社は海中にあるように水の神様で、市杵島比売命はいつしか弁才天(べんざいてん)と同一視されるようになって、弁才天は仏神の一つで民俗神では水神となりました。

平安時代末期の本地垂迹(ほんぢすいじゃく)説では、市杵島比売命は垂迹(仮の姿)神、その本地(本来の姿)は仏神の弁才天だとされます。本源はインドの河神で、一説にはインダス川の神格化ともいわれ、のちに仏教にも取り入れられます。神道における神の考え方は自然観によるものが多く、水があるところに蛇が住むことから、蛇と弁才天が結びつき、弁才天は蛇の化身だと信じられ、今でも池・小川の水辺に忘れられたように石の弁才天が祀られており、水を司る神として農民に信奉された名残を見て取れます。

明治時代となり神仏分離令で、全国の弁天社の多くが巖島神社とその名を改め、“安芸の巖島神社”を総本社としました。上野池にもそういう歴史の一面があったのでしょうか。『庄原雑録』には、上野池に弁才天1社があると記録されていますが、巖島神社の記載はありません。

では、上野池の巖島神社はいつ頃からあったのでしょうか。『芸藩通志』文政8(1825)年、庄原村地図には巖島神社が登場しません。この年以降に建てられたからでしょうか？

丑寅神社宮司さんの話ですと、その昔「丑寅神社境内と湖上に浮かぶ鳥居とを結ぶ水面下には巖島神社への参詣(さんけい)道があった」そうです。

参詣道の水没は貯水量の増加によるものですが、それは最後の堤防かさ上げ及び池底掘り下げ工事が行われた元禄4(1691)年『庄原雑録』以前のことになり、往時上野公園湖畔において、七月十七日を恒例として行われた弁天祭がありました。昭和初期には管弦楽の音色に誘われ屋形船も繰り出され、県北最大の夜祭といわれ、戦争がはじまり一時行事が途絶えますが、戦争が終わると再開されて花火大会が定着します。

湖面にくりひろげられる仕掛け花火、夜空に高く打ち上げられた無数の花火が湖面に映え、盛大を極めました。時代の流れとともに、この夏の風物詩もいつしか、よいとこ祭に組み込まれて秋の行事となり、暦の上での季節感が変わりました。

昔を知る年代には花火大会といえば“十七夜(じゅうしちや)”が連想されます。

なお、総本社である巖島神社の祭事は「巖島祭り(管弦祭)」と呼ばれ、旧暦6月17日に行われています。



上野池弁天島
新しく建て替えた鳥居、後方には桜に囲まれた神殿

今回は、「郷土の歴史を楽しむ豆知識：外伝 狼地藏伝説」を紹介します。お楽しみに…。

《 文・構成 庄原自治振興区 歴史文化継承委員会 》

清水地蔵尊 法要

— 西下自治会 —

庄原グランドホテルの駐車側から見えるところに、静かに佇んでいる清水地蔵があります。

数十年の昔から地元お年寄りの方々が見守ってこられました。現在は女性部 18 名で、周りの掃除や花壇の手入れなどのお世話をしています。

毎年 8 月 24 日には清水地蔵尊のお祭りがあります、常会の皆さんが集まり肅々と営われます。

清水地蔵のいわれは、子どもの守り地蔵とか、清水が湧く場所のお地蔵様とか言われており「おんかかかびさんまえいそわか」と昔からのお唱えがあります。意味も理解できないまま、お線香をあげ手を合わせている状態ですが、それでも何故か心が穏やかになる不思議な空間です。近くに来られましたら是非立ち寄ってみられたら如何でしょうか。



第 14 回「活動報告・作品展」のお知らせ！

日時：令和 3 年 11 月 7 日(日) 9 時 30 分 ～ 午後 3 時
場所：庄原市ふれあいセンター コパリホール他

今年度、開催場所が変わりますが、専門部各サークルの作品展、ステージ発表、トラック市場など予定しています。
詳しい内容は後日回覧にてお知らせいたします。



第 14 回「狼煙」再現プロジェクト 「のろし祭り」のお知らせ！

日時：令和 3 年 11 月 23 日(火・祝) 11 時 00 分～
場所：美湯ハイツ ゆうしゃいんコアハウス用地

新型コロナウイルスにより今年度も「のろしリレー」だけを予定し、イベントは行いません。

詳しい内容は後日回覧にてお知らせいたします。



11 月の振興区主催行事予定

7 日(日)	第 14 回活動報告作品展	9:30～
9 日(火)	理事総務企画室合同会議	13:30～
16 日(火)	環境美化防犯パトロール (石丸・柳原・西県住・大歳県住の各自治会長)	9:00～
23 日(火・祝)	のろし祭り	11:00～
24 日(水)	役員会	13:30～
毎週 1 回	青少協防犯パトロール	16:30～

編集後記

この便りも、180 号を迎えることとなりましたが、このところ振興区及び各自治会の活動が出来ないことから、紙面が乏しく記事を埋めるのに苦労しています。新型コロナの感染がここまで長引き、パンデミックが続くとは、まさに未曾有のことです。

予防ワクチンの接種は進んでいますが、世界的には国家間の格差が大きくあり、接種率が 1% に満たない国もあると言います。収束にはまだ時間が掛かるとは思いますが、この状況下において活気を取り戻す為に、自治振興区として何ができるのか模索しているところです。

菟原 記